患者向医薬品ガイド

２０２５年９月更新

ミノマイシンカプセル５０ｍｇ
ミノマイシンカプセル１００ｍｇ

【この薬は？】

販売名	ミノマイシンカプセル５０ｍｇ MINOMYCIN CAPSULES 50mg	ミノマイシンカプセル１００ｍｇ MINOMYCIN CAPSULES 100mg
一般名	ミノサイクリン塩酸塩 Minocycline Hydrochloride	
含有量（１カプセル中）	５０ｍｇ（力価）	１００ｍｇ（力価）

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、テトラサイクリン系抗菌剤と呼ばれるグループに属する薬です。
・この薬は、感染症の原因となる細菌の蛋白質の合成を妨げることにより、細菌の増殖を抑えます。
・次の病気の人に処方されます。

〈適応症〉

表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管･リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷･熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭･喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎を含む）、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、精巣上体炎（副睾丸炎）、尿道炎、淋菌感染症、梅毒、腹膜炎、感染性腸炎、外陰炎、細菌

性腟炎、子宮内感染、涙嚢炎、麦粒腫、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、上顎洞炎、顎炎、炭疽、つつが虫病、オウム病

〈適応菌種〉

ミノサイクリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、炭疽菌、大腸菌、赤痢菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ･モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌、梅毒トレポネーマ、リケッチア属（オリエンチア･ツツガムシ）、クラミジア属、肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ･ニューモニエ）

・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

〇次の人は、この薬を使用することはできません。

・過去にテトラサイクリン系薬剤で過敏症のあった人

〇次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

・飲食物やくすりを飲み込むことが難しい人
・経口による摂取ができない人または経口以外の方法で栄養を摂取している人、全身状態の悪い人
・腎臓に障害のある人
・肝臓に障害のある人
・妊婦または妊娠している可能性のある人
・授乳中の人

〇この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量と回数は、あなたの症状などにあわせて医師が決めます。

ミノマイシンカプセル５０ｍｇと１００ｍｇを組み合わせて飲むことがあります。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

販売名	ミノマイシンカプセル５０ｍｇ ミノマイシンカプセル１００ｍｇ
一回量	初回：１００～２００ｍｇ（力価） ２回目以降：１００ｍｇ（力価）
飲む回数	１日１回または２回

●どのように飲むか？

多めの水で飲んでください。就寝直前にはなるべく飲まないでください。食道にとどまって食道潰瘍を起こすことがあります。

●飲み忘れた場合の対応

決して２回分を一度に飲まないでください。

気がついた時に、１回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は１回とばして、次の時間に１回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

肝障害（疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振）などがあらわれる可能性があります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、使用を中止し、ただちに医師に連絡してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・めまい感があらわれることがありますので、自動車の運転などの危険を伴う機械の操作および高所での作業などは行わないでください。
・自己免疫性肝炎（体がだるい、吐き気、嘔吐（おうと）、食欲不振、発熱、上腹部痛、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる）があらわれることがありますので、この薬の使用中は定期的に検査が行われます。
・血液障害（発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい、頭が重い、動悸（どうき）、息切れ）があらわれることがありますので、この薬の使用中は定期的に検査が行われます。
・急性腎障害（尿量が減る、むくみ、体がだるい）、間質性腎炎（発熱、発疹、関節の痛み、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、むくみ、尿量が減る）があらわれることがありますので、この薬の使用中は定期的に検査が行われます。
・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
・授乳している人は医師に相談してください。
・小児（特に８歳未満の小児）が使用した場合、歯の着色・エナメル質形成不全や骨の発育不全をおこすことがあります。
・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失

重大な副作用	主な自覚症状
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸、息苦しい
ループス様症候群 ループスようしょうこうぐん	体がだるい、関節の痛み、発熱、顔の赤い発疹、体重減少
結節性多発動脈炎 けっせつせいたはつどうみゃくえん	発熱、体重が減る、筋肉の痛み、手足のしびれ
顕微鏡的多発血管炎 けんびきょうてきたはつけっかんえん	体がだるい、体重が減る、発熱、筋肉の痛み、関節の痛み
自己免疫性肝炎 じこめんえきせいかんえん	体がだるい、吐き気、嘔吐、食欲不振、発熱、上腹部痛、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる
中毒性表皮壊死融解症（ＴＥＮ） ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう（テン）	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群（スティーブンスージョンソン症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん（スティーブンスージョンソンしょうこうぐん）	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
多形紅斑 たけいこうはん	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、発熱、関節の痛み、喉の痛み
剥脱性皮膚炎 はくだつせいひふえん	ほぼ全身の皮膚が発赤する、フケやかさぶたのようなものを付着し、それがはがれ落ちる、発熱をしばしば伴う
薬剤性過敏症症候群 やくざいせいかびんしょうしょうこうぐん	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体がだるい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ
血液障害 けつえきしょうがい	発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい、頭が重い、動悸、息切れ
重篤な肝機能障害 じゅうとくなかんきのうしょうがい	体がだるい、吐き気、食欲不振、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる(鮮紅色～暗赤色または黒色)、意識の低下
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
間質性腎炎 かんしつせいじんえん	発熱、発疹、関節の痛み、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、むくみ、尿量が減る

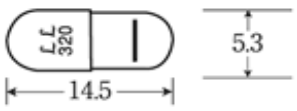
重大な副作用	主な自覚症状
呼吸困難 こきゅうこんなん	息苦しい、息切れ
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
ＰＩＥ症候群 ピーアイイーしょうこうぐん	発熱、咳、息切れ、息苦しい
膵炎 すいえん	強い腹痛、背中の痛み、お腹が張る、吐き気、嘔吐、体重が減る、喉が渇く、尿量が増える、皮膚が黄色くなる、油っぽい下痢が出る
精神神経障害 せいしんしんけいしょうがい	幻覚、妄想、興奮、抑うつ
出血性腸炎 しゅっけつせいちょうえん	激しい腹痛、血が混ざった下痢、発熱、ふらつき、息切れ
偽膜性大腸炎 ぎまくせいだいちょうえん	腹痛、血の混ざったゆるい便が出る、ゆるい便が出る、発熱、頭痛、吐き気、冷汗が出る、顔面蒼白、手足が冷たくなる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、ふらつき、体がだるい、発熱、体重減少、体重が減る、発熱をしばしば伴う、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ、寒気、出血が止まりにくい、体がかゆくなる、急激に体重が増える、むくみ
頭部	めまい、意識の消失、頭が重い、意識の低下、幻覚、妄想、興奮、抑うつ、頭痛
顔面	顔面蒼白、顔の赤い発疹、鼻血
眼	白目が黄色くなる、目の充血やただれ
口や喉	喉のかゆみ、吐き気、嘔吐、唇や口内のただれ、喉の痛み、歯ぐきからの出血、血を吐く、咳、喉が渇く
胸部	動悸、息苦しい、息切れ
腹部	食欲不振、お腹が張る、腹痛、強い腹痛、激しい腹痛、上腹部痛
背中	背中の痛み
手・足	手足が冷たくなる、関節の痛み、手足のしびれ
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、皮膚が黄色くなる、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、ほぼ全身の皮膚が発赤する、フケやかさぶたのようなものを付着し、それがはがれ落ちる、皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、あおあざができる、発疹
筋肉	筋肉の痛み

部位	自覚症状
便	便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）、下痢、油っぽい下痢が出る、血が混ざった下痢、血の混ざったゆるい便が出る、ゆるい便が出る
尿	尿の色が濃くなる、尿量が減る、尿量が増える

【この薬の形は？】

販売名	ミノマイシンカプセル５０ｍｇ	ミノマイシンカプセル１００ｍｇ
ＰＴＰシート		
外形（mm）		
色調等	薄いベージュ色	
剤形	４号硬カプセル	２号硬カプセル
識別コード	LL 320	LL 324

【この薬に含まれているのは？】

販売名	ミノマイシンカプセル５０ｍｇ、ミノマイシンカプセル１００ｍｇ
有効成分	ミノサイクリン塩酸塩
添加剤	トウモロコシデンプン、ステアリン酸マグネシウム （カプセル本体）酸化チタン、三二酸化鉄、ラウリル硫酸ナトリウム

【その他】

●この薬の保管方法は？

・直射日光と湿気を避けて、室温（１～３０℃）で保管してください。
・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

・絶対に他の人に渡してはいけません。
・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ファイザー株式会社
(https://www.pfizer.co.jp/pfizer/)
メディカル・インフォメーション（患者さん・一般の方）
電　　話：０１２０－９６５－４８５
受付時間：月～金　９時～１７時３０分
（土日祝日および弊社休業日を除く）